

第11回池田大作思想国際学術シンポジウム基調講演

馬場善久

I. はじめに

本日は、第11回池田大作思想国際学術シンポジウムの開催にあたり、このように多くの皆様にご出席いただき心より御礼を申し上げます。

今回の会議はもともと昨年の秋に開催される予定でしたが、コロナウイルスの感染症のために、1年延期を決めました。今年は皆様に創価大学でお迎えして、何とか開催できないか、実行委員会で種々検討していただきました。世界中で感染症の状況など、諸事情を考慮して、残念ですがオンラインでの開催を決定しました。大勢の皆様が創価大学のキャンパスを訪問されることを楽しみにされていたことと存じます。皆様が本学を訪問できる何らかの機会を今後検討して参りますので、ご理解をいただければと思います。

この度、来賓として挨拶をいただいた清華大学元学長である顧秉林（コヘイリン）高等研究院院長、並びにN.ラダクリシュナン博士に衷心より御礼を申し上げます。ご多忙の中、素晴らしい祝辞をいただき、誠にありがとうございます。

また、中華日本学会の高洪会長並びにデポール大学のジェーソン・グーラー教授には基調講演をお引き受けいただいたことに御礼を申し上げます。お二人の基調講演によって本シンポジウムの学術的価値を高めることができました。

池田大作思想国際学術シンポジウムは、皆様のご支援、ご協力のおかげで、今回で11回目を迎えることができました。第1回目は2005年に、北京大学において『『二十一世紀への対話』と現代社会』をテーマに掲げ、北京大学池田大作研究会と創価大学の共同で開催しました。参加人数は30名という小規模なものでした。今回は、中国、台湾、韓国に加え、アメリカ、スペイン、ブラジル、インド、ケニア、カナダからも研究者が参加され、10カ国・地域、52大学機関から、89名の方が論文発表を予定しております。このように盛大に開催することができ、第1回目の当時を知る私個人にとっても感慨深い思いがあります。

本シンポジウムが今日まで継続・発展できたのは、これまで本シンポジウムの共催を引き受けて下さった中国の各交流大学の皆様をはじめ、池田研究機関の多くの研究者の皆様のお陰です。これまでの本シンポジウムの開催にご尽力をいただいたすべての方々に心から御礼を申し上げます。

本年、創価大学は創立50周年の佳節を迎えました。その意義を留めるために「創価大学50年の歴史」を編纂し出版いたしました。出版に際し、創立者池田大作先生は「発刊に寄せて」と題するご寄稿を贈っていただきました。

寄稿の中で創立者はハーバード大学のエリオット学長の「大学は人間のつくった制度の中で最も永続するものの一つである」との言葉を紹介された上で、大学の意義について次のように述べておられます。

「大学は人間をつなぐ結合の中で最も普遍にして力強いものである」と。

そして、

「冷戦下の世界であって、わが創大は日本と中国、日本とロシア、中国とロシア、さらには日本とキューバ、アメリカとキューバ等々を、イデオロギーや体制を超えて、教育・文化の橋で結ぶ貢献を果たしてきました」

と本学の国際交流について述懐しておられます。

本シンポジウムが学術・文化の交流を通して、これまで以上に強く人間を結び付けつける機会となることを心より期待をしています。

II. 創立者の世界市民並びに世界市民教育について

今回のシンポジウムのテーマは「人類の共生と世界市民教育」です。本学の世界市民教育を考えると、25年前に創立者が行った講演が重要な意義もっています。それは、1996年にアメリカのコロンビア大学ティーチャーズ・カレッジでの「地球市民教育に関する一考察」と題する講演です。

創立者は、1970年代から世界市民並びに世界市民教育に関して言及し、考察を加えてきました。1975年から1996年のティーチャーズ・カレッジ講演までに、講演、スピーチ、論文や提言などでこの問題について論究していますが、その数は20を超えます。ここで、皆さんとともにその概要を振り返ってみたいと思います。

1970年代に創立者は世界市民の資質として平和に貢献することを特に強調されています。1975年5月に創価大学2期生へのスピーチの中で次のように世界市民への期待を述べておられます。

未来精神をもちグローバルな視野に立った世界市民として、世界の平和の為に進んでいって

いただきたい。それ以外に日本のゆく道もないし、また世界の平和につながる直道もないと思います。

また、1979年2月の『創大平和研究』創刊号への特別寄稿「二十一世紀への平和路線」で以下のように言及されています。

私がかつて、国連のワルトハイム事務総長に会った際、「国連を守る世界市民の会」（仮称）の設置を提案したのも、世界市民の自覚に立った人々の連帯の輪こそ、国連を誤たずにリードしていく重要な一環となると考えたからである。

1970年代には、東西冷戦が継続されており、また、中ソの対立、1975年までベトナム戦争が続くなど、平和の問題が喫緊の課題となっていたことを想起する必要があります。そして、平和を含め世界の様々な問題を解決するには、国連の機能強化が必要だとの考えは、トインビー対談以後、創立者の一貫した主張です。

国連に関連して、1987年の「SGIの日」記念提言では、1991年から10年間を「国連世界市民教育の10年」として取り組むことを提案しています。更に、1988年の同提言では、「世界市民」教育のベースになるものとして、「世界市民憲章」の制定を提案されています。

1990年代に入ると、創立者の世界市民に関する言及は増加します。特に、世界市民の資質に関して、世界の大学の講演で考察をされています。ここでいくつかの例を示します。

1991年のマカオ大学での「新しき人類意識を求めて」と題する講演では、「五常（仁・義・礼・智・信）」という徳目と世界市民の関連を論じられ、「世界市民の条件は、まさにこのエゴイズムの超克にある」と結論されています。そして、この五常という徳目を体現した人物として、周恩来総理を挙げられ、元総理の言動と振る舞いにふれられています。

同じく1991年のハーバード大学での「ソフト・パワーの時代と哲学」と題する講演では、「内発的精神に支えられた自己規律、自己制御の心」を世界市民の資質として挙げられ、“アメリカ・ルネサンス”の旗手と称されるエマーソン、ソロー、ホイットマン等がその資質を有していたと論じられています。

1994年のポロニア大学での「レオナルドの眼と人類の議会—国連の未来についての考察」と題する講演では、国連を活性化する基盤としての世界市民のエートス（道徳的気風）をレオナルド・ダビンチを例にとって論じられています。そして、「自己を統御する意志」と「創造の間断無き飛翔」をその条件とされています。

その他、フィリピン大学、モスクワ大学での講演、さらに中国社会科学院では「共生のエートス」（対立よりも調和、分裂よりも結合、“われ”よりも“われわれ”を基調に、人間同士が、人間と自然とが、共に生き、支え合いながら、ともどもに繁栄していこうという心的傾向）を世界市民の資質として論じられています。

以上、1970年代からの世界市民と世界市民教育に関する創立者の考えを概観してきましたが、20年以上にわたる考察が1996年のティーチャーズ・カレッジ講演に結実したと考えることができると思います。

ご存じのように、ティーチャーズ・カレッジは教育大学院で常に全米のトップランクに評価されている教育学の分野で教育・研究の世界的な拠点です。そして、かつてジョン・デューイが教鞭をとっていた歴史のある機関です。

幸運なことに私は25年前の講演を直接聞くことができました。この講演は、それまでの創立者の世界市民並びに世界市民教育に関する集大成ともいえるべき内容です。それは、創価大学の教育・研究に大変に重要な意義がある講演ですし、創価大学の未来の方向性を考える上でも大きな示唆を与えてくれます。私自身、その講演内容を何度も読み返すことで、創立者の教育の考え方、デューイと牧口先生の教育思想の比較、地球市民の要件、地球市民と菩薩の関係、創価教育機関設立への創立者の思い、そして、地球的課題への取り組みなど、読むたびごとに新たな気づきがありました。

この講演で、創立者は、価値創造力を「端的にいうならば、いかなる環境にあっても、そこに意味を見だし、自分自身を強め、そして他者の幸福へ貢献しゆく力」と定義しています。そして、「地球規模で価値創造のできる人間」を「地球市民」とし、以下の3つを地球市民の要件として指摘しています。

- ・生命の相関性を深く認識しゆく「智慧の人」
- ・人種や民族や文化の差異を恐れたり、拒否するのではなく、尊重し、理解し、成長の糧としゆく「勇気の人」
- ・身近に限らず、遠いところで苦しんでいる人々にも同苦し、連帯しゆく「慈悲の人」

国連は2012年に「グローバル教育第一イニシアティブ」(GEFI: Global Education First Initiative)を提唱し、その3つの重要な課題の1つに地球市民性の育成を挙げています。その後、地球市民教育に関する実施機関としてユネスコがさまざまなプロジェクトや会議を開催し、いくつかの重要な報告書も公表しています。創立者の世界市民の考え方との関連で、私が興味深く感じているのが2015年にユネスコによって出版された“Global Citizenship Education : TOPICS AND LEARNING OBJECTIVES”です。この中で地球市民教育に期待される学習成果を1) 認知 (Cognitive)、2) 社会や情緒 (Socio-emotional)、3) 行動 (Behavioural) という3つの領域で定めております。先に述べた創立者による「智慧」、「勇気」と「慈悲」という3つの要件と、この3つの領域を比較すると、類似性が高いことがわかると思います。例えば、表1のように分類することが可能ではないでしょうか。

創立者コロンビア大学講演	ユネスコの定義	
	領域 (Domain)	学習成果 (Learning Outcomes)
生命の相関性を深く認識しゆく「智慧の人」	認知 (Cognitive)	地球、地域、国、地方に関する問題や様々な国々や人々の相互依存に関する知識、理解や批判的思考を獲得していること。
人種や民族や文化の差異を恐れたり、拒否するのではなく、尊重し、理解し、成長の糧としゆく「勇気の人」	社会や情緒 (Socio-emotional)	人類の一員であるとの感覚や差異や多様性に対する価値、責任、共感、連帯や尊敬を有していること。
身近に限らず、遠いところで苦しんでいる人々にも同苦し、連帯しゆく「慈悲の人」	行動 (Behavioural)	地域、国や地球レベルでより平和で持続可能な世界のために有効にそして責任を持って行動すること。

表 1

また、世界市民の概念については、多くの人々が論じており、多様な考え方があるというのも事実です。例えば、Laura Oxley と Paul Morris は、雑誌 “British Journal of Educational Studies” に発表した “Global Citizenship : A Typology for Distinguishing Its Multiple Conceptions” と題する論文で世界市民の概念を 8 つに分類しております。表 2 に示しているように、彼らは世界市民の概念を 2 つのタイプ、すなわち、Cosmopolitan と Advocacy に分け、それぞれ 4 つに分類しています。時間の関係上、その詳細を論じることはできませんが、創立者の世界市民の概念とこれらの類型との関連などについても専門家の方々の力で今後研究が進むことを期待しています。

Cosmopolitan types	Advocacy types
Political global citizenship	Social global citizenship
Moral global citizenship	Critical global citizenship
Economic global citizenship	Environmental global citizenship
Cultural global citizenship	Spiritual global citizenship

出典：Laura Oxley & Paul Morris (2013) “Global Citizenship : A Typology for Distinguishing Its Multiple Conceptions” *British Journal of Educational Studies*, v61 n3

表 2

Ⅲ. 創価大学の世界市民教育の取り組み

創価大学は開学当初から、国際交流と国際教育に注力をしてきました。学生の国際理解を深めるために、学生の交換留学制度も 1980 年代から充実を図ってきました。また、キャンパスでは国内外の識者を招き、折々に学生向けに講演も行っております。これまでノーベル平和賞受賞者だけでも、ベティ・ウィリアムス女史、ゴルバチョフ元ソ連大統領、ワンガリ・マータイ女史、ムハマド・ユヌス氏が本学を訪問し、学生への講演会を実施しています。昨年は、オンラインで ICAN のフィン事務局長が核廃絶と青年の役割をテーマに講演してくれました。

創立者のティーチャーズ・カレッジでの講演以後、正課の教育課程に世界市民教育を取り入れ

る努力を続けています。平和、人権、環境、開発の地球的課題を学べるように、共通科目に該当科目を設置し、学生誰もが履修できる措置をとりました。

2010 年から実施した 2020 年までの中長期計画である「創価大学グランドデザイン」では、国際戦略をその重要項目として、受け入れと派遣の交換留学生の増加とともに留学生の増加を目標として掲げました。その目的は創価大学のキャンパスそのものを多文化共生の、そして多様性豊かなグローバルキャンパスとして構築することにあります。また、2010 年度より、学部横断の世界市民教育プログラム（global citizenship program, GCP）を開始し、「智慧」、「勇氣」、「慈悲」という世界市民の 3 つの資質を育成するプログラムを開始しました。

こうした本学の国際交流、国際教育と世界市民教育の取り組みにより、2014 年に文部科学省によって実施されたスーパーグローバル大学創成支援事業に本学も採択されました。本学は、「人間教育の世界的拠点の構築～平和と持続可能な繁栄を先導する『世界市民』教育プログラム～」をテーマに掲げました。この事業は全国で 37 大学が採択され、これまで 2 回の中間評価が実施されましたが、本学は 2 回連続で最高評価を得ることができました。ちなみに、2 回連続最高評価は本学を含めて 4 大学だけが獲得しております。また、THE による世界大学ランキング日本版 2021 の「国際性」の分野で、本学が 9 位にランクインをしました。これらの評価も、本日の会議に出席されている皆様のご協力の賜物であると心から感謝を申し上げます。

最後に、本学の今後の世界市民教育の取り組みについてその概要を説明します。先ほど述べましたように、本年 4 月 2 日に創価大学は創立 50 周年の佳節を迎えました。そして、本学の 10 年間の中長期計画である『Soka University Grand Design 2021-2030』の取り組みを開始しました。その内容は本学ホームページで公表されておりますので、是非ご覧ください。その計画では、「世界市民教育」、「SDGs の達成」、「多様性あるキャンパスの構築」などをコンセプトとして、「価値創造を实践する『世界市民』を育む大学」とのテーマを掲げました。SDGs が掲げる地球規模の問題に対して真摯に向き合い、「平和」という目的の実現に向けて、新たな価値を創造する「世界市民」を輩出することが本学の使命です。「価値創造を实践する世界市民」とは、貧困や環境、教育、紛争などの地球規模の課題であっても、「どんな困難な問題でも人間が引き起こしたものである限り、必ず解決することはできる」との希望から出発し、他者と連携しながら未来を切り開くための力を有した人材です。

教育の分野では、世界市民教育の体系化、世界市民教育の成果の可視化、世界市民教育のネットワーク形成を掲げ、変化する社会を支える「世界市民」が育つ教育システムの構築を目指します。

研究の分野では、池田大作記念創価教育研究所が中心となって、世界市民教育の拠点構築を目指し、国際共同研究を通じた研究者のネットワークを構築して、刊行物の発刊やシンポジウム開催等による教育・研究成果の発信に取り組みます。また、現在文学研究科の教育学専攻を教育学研究科に改組して、世界市民教育の研究者や高度人材養成に取り組みます。

特に、世界市民教育に関する国際共同研究の推進はこの 10 年間の重点事項です。現在、2030

年までに、2022年、2026年と2030年の3回、世界市民教育シンポジウムの開催を予定しています。第1回は明年の秋の開催を目指し、現在準備をすすめております。創立者のティーチャーズカレッジの講演でも言及されたデューイに焦点をあて、“Learning to Live Together : Global Citizenship Education and John Dewey”がテーマです。その詳細は間もなく、実行委員会からアナウンスされますので、興味ある方は是非参加を考えていただければと思います。

今年も世界中で気候変動の影響で異常気象が発生しています。夏の間だけでも、ヨーロッパの異常な高温と洪水、中国の河南省を中心とする大雨、ブラジルでは南部に寒波が押し寄せ、コーヒーの不作の原因となっています。北米の西海岸にも熱波が押し寄せました。日本でも九州、中国地方を中心に大雨による洪水と土砂災害が発生しました。今年8月に国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が報告書を発表しました。その報告書では気温上昇が「人が原因である」と初めて断定し、産業革命以降の世界の平均気温の上昇幅が今後20年以内に1.5度に達するとの科学的予測を示しています。

本日の会議のテーマは「人類共生と世界市民教育」です。気候変動の問題をとっても、「どんな困難な問題でも人間が引き起こしたものである限り、必ず解決することはできる」との希望から出発し、他者と連携しながら未来を切り開くための力を有した世界市民が必要です。これからも創価大学は、世界市民教育に関して、できる限り幅広いネットワークを形成し、皆様とともにこの地球により良い未来をもたらす世界市民を輩出することに全力を尽くしてまいります。

ご清聴、ありがとうございました。